

## 平成 30 年度 社会福祉法人ひつじ事業報告

1. 平成 28 年度から始まった新規施設「えひめ」「あぼかど」そして「あぼろん」の施設整備は、平成 29 年度末には全て完了し、平成 30 年 4 月 1 日より事業を開始した。同じ時期に、「作業所いつでも」開設に向け既存住宅の購入と改修を行い、「あいまいもこ」の増築も行った。「生活支援センターいつでももり」の運営も軌道に乗せることが出来た。これらは全て、平成 29 年度事業として着手したものであった。その時から約 2 年、私たちは、本業の障害を持つ人たちの生活支援を忘れたかのように、既存施設が落ち度なく行われることを願い、新規施設が円滑に稼働し経営的にも予定通りの運営が行われていくことを心底願って来た。それは、既に立てたマスタープラン通りのことを行って来たことにしか過ぎない一つ一つの計画の実行の積み重ねであったわけだが、それだけの苦勞が実りあるものになったという喜びが大きなものになったかということ、実はそうではなかった。どうしてそのように感じたか。振り返りを行いつつ、そこで課題となっていたことが何であったのか、それは現在も苦戦しているところであるので、その報告を行い、まとめとしたい。

2. 今から振り返ると、施設整備事業が始まると、(4 年前になると思われるが) 大変荷の重い作業になることは覚悟していたが、その実感はなかった。それは、終わってみると、思っていた以上の心身共に大きなダメージになったことを、今になって改めて痛切に感じるようになったからである。そもそも幾つかの施設整備や新規事業を同時に手掛けるとどんなことになるのか分かっていなかったから突き進めた話であって、よく分かっていたらこのような無謀な計画を実行することはなかっただろうと思う。ただ、断っておくが、幾つかの事業が同時期に重なることになったのは、私たちの意志を超えた偶然であったり、時代の変わり目であったり、それらは社会状況との関係で同時進行する状況変化への対応であって、殆ど選択肢のない状況で進めるしかなかったことであつた。

3. 新規事業を手掛け始めて一年が経った。「えひめ」にしても「作業所いつでも」にしても、職員間との疎通の問題は、もう少し時間が経たないとはっきりして来ないだろう。つまり、新規事業を立ち上げる時に経験することは、「寄せ集め」の職員が、どのような道筋を辿り疎通を図り、経験を蓄積させていくかは一定の時間を共有する「付き合い」を経てからでないと、いくら頭で「その相互作用が機能的になるように」と願ったところで、早い話が「やって見なくては分からない」ということになる。指定申請を受けられるようにするためには、その最低条件以上の人員を配置しなくてはならない。しかし、その「働き具合」は、職員との意思疎通や協力連携問題だけでなく、利用者からみれば、何となくいてくれるだけで有難いと思える人から、困った時に相談するとすっきりした気持ちになれるので大変ありがたい存在だと思える人、確かに話は聞いては貰えるけど何時も分かって貰えない「もやもや」がかえって残ってしまう人まで、相当な人の幅が実際のところ出来てしまう。この遣り繰りと調整は、施設長と数人の主力職員が担うことになる。上手くいくのであればこれで万々歳となるが、そのようなことは決してない。職員と利用者が入り乱れて、次々に問題を持ち込んでくる。これが現場の日常だから特別珍しい事でもないのであるが、発達の、人格的、精神的、諸問題を抱えた人をどこまで受け入れるかは、それぞれの事業所の持つ受容的雰囲気と職員の能力の総和によって決定される。これはこれで関係機関からの評価を気にしながらのことになるので、結構気が重くなることが多い。

4. 既存の就労系の事業所は、「勝手知ったる」所となり、多くの経験知によって支えられているので、問題になるのは新規事業所の場合となる。前項で触れた新規事業の場合、事業を立ち上げ、それを我慢強く続けてみないと分からないことが多いので、早急な判断はせぬに越したことはない。と、というのが今のところの対応の仕方である。この先、それぞれの事業所の創意工夫を待つことになる。しかし、今回の施設整備で「あぼかど」と「あぼろん」という磐田と袋井に建物の広さ形は全く同じグループホームを開設したが、これが「全く勝手が分からない」中での運営となったので、建物は出来たものの「どのような人たちがその対象になるのか、その話し合いを行うことから始め、既に希望している本人及びその家族の現在の生活状況の把握から始めることになった。報酬の問題もよく把握できなかつたし、世話人及び生活支援員の配置と勤務形態の問題では特に長時

間頭を悩ませることになった。制度の上では、グループホームは、日中何れかの就労系の事業所に通うか仕事に就くための準備を行うこととされている。単純な言い方をすると、介護、介助を必要とする人ではないものの、自己管理できる状態でアパート生活が出来る状態ほど自立度が低い人のお世話をすることがその対象となり、夕方から夜にかけての時間帯で、食事や入浴を滞りなく出来るお手伝いをすることであり、夜間はきちんと睡眠を取り、規則正しい生活を維持できるようにするための、「自己努力型施設」ということが出来る。ところが、昼間自室に引きこもり出て来なくなる人や、自室での喫煙は火災の心配を拭えないので遠慮して貰うことにしたが、自室で平然と喫煙する人が出て来たり、過敏になって一寸した注意や周りの雰囲気について自室に逃げ込んだり、極めて不安定になって夜眠れなくなったり、こういう人たちがたった定員7人のグループホームに何人か出てきて、しかもこれらの問題行動を持つ人とが同時進行で問題行動を繰り返して行うようになった時には、流石に途方に暮れてしまうほどになった。グループホームの運営は、未知数のことが多いので、準備に時間をかけ、充分とは言い難いが、それなりの心の準備をして取り組みを始めていただけに、まだまだ私たちが知って置かなくてはならないことが多くあることを嫌と言うほど知らされることになったのである。このグループホームに併設する形で始めたショートステイも、その対象となるだろう人たちを確認し進めてきたが、未知数のことが多くとしか今のところでは言えない。

5. 最後に法人の経営について触れておきたい。冒頭で触れた幾つかの同時進行した事業は、必要性を強く感じたからこそそのことであって議論の余地を残すことではないと考える。ただ、今回の施設整備等にも予定外の出費が相当あった。それを「何とか行けるだろう」という大雑把な読みだけで行ったことが、読み違いに繋がった。要するに甘かったのだ。NPO 法人時代から進めて来た

「必要即応」という、地域状況を考慮した時、多くの需要があるにも関わらず、そのニーズへの供給は行われぬまま嘆く人たちやその関係者を多く見て来て、まだまだ「行ける」と、直感したからであった。ただ、経営という切り口からものを見ると全く違った世界がそこにあり、私たちが人間味を持った関わりこそが大事だとする在り方を相容れないクールな世界が存在していることも思い知らされることになった。それは、施設整備を行う際、福祉医療機構から借入れを起こすとしても、月々の返済が家賃相当分以上に膨らむことをしないという原則を守ってきたからできたことだと考えている。しかし、静岡銀行からの融資を受けることになったのは、運営と経営に十分気を付けて来たからという「油断」があったことを認めなくてはならないと考える。幸いにして、予想したものと近い線で返済が進んでいることを報告しておきたい。

### ● 理事会・評議員会開催

開催日	出席数/理事総数 出席数/評議員総数	議題
H30.5.31 (理事会①)	5/7 監事 2/2	① 平成 29 年度事業報告について ② 平成 29 年度決算報告について ③ 諸規定について ④ 定時評議員会の招集について ⑤ 報告事項
H30.6.16 (評議員会①)	5/8 監事 1/2	① 平成 29 年度決算報告について ② 定款変更について ③ 平成 29 年度事業報告について ④ 報告事項
H30.7.3 (理事会②)	書面	① 評議員会の開催について
H30.7.10 (評議員会②)	書面	① 定款変更について
H30.8.6	7/7	① 借入について

(理事会④)	監事 2/2	② 諸規定について
H30.9.24 (理事会④)	書面	① 各種規則について ② 新規事業の開始とその運営規定について
H30.10.31 (理事会⑤)	書面	① 評議員会の開催について
H30.11.22 (理事会⑥)	6/7 監事 1/2	① 平成 30 年度中間事業報告、決算報告 ② 平成 30 年度第 1 次資金収支補正予算書(案)について ③ 規定の変更について ④ 施設長の人事について ⑤ 報告事項
H30.11.22 (評議員会③)	6/8 監事 1/2	① 平成 30 年度中間事業報告、決算報告 ② 平成 30 年度第 1 次資金収支補正予算書(案)について ③ 規定の変更について ④ 施設長の人事について ⑤ 報告事項
H31.1.24 (理事会⑦)	5/7 監事 1/2	① 駐車場用地購入について
H31.2.28 (理事会⑧)	書面	① 評議員会の開催について
H31.3.22 (理事会⑨)	4/7 監事 1/2	① 平成 30 年度最終補正予算(案)について ② 平成 31 年度事業計画、当初予算に(案)について ③ 施設長の選任 ④ 諸規定の制定、変更 ⑤ 報告事項
H31.3.22 (評議員会④)	5/8 監事 1/2	① 平成 30 年度最終補正予算(案)について ② 平成 31 年度事業計画、当初予算に(案)について ③ 施設長の選任 ④ 諸規定の制定、変更 ⑤ 報告事項
H31.3.31 (理事会⑩)	書面	① 運営規定の変更について

- 評議員選任解任委員会開催  
なし

- 苦情解決報告  
なし

### 障害福祉サービス事業

事業所名：学舎いろいろ（就労 B）・ぼちぼち（生活介護）

#### 1. 事業所概要

- |         |                                   |                                   |
|---------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| (1) 所在地 | 磐田市見付 5883-5                      | 磐田市豊浜 424-6                       |
| (2) 種別  | 就労継続支援（B 型）、日中一時支援                | 生活介護                              |
| (3) 営業日 | 月曜～土曜                             | 9:00～16:00                        |
| (4) 定員  | 20 名（就労継続 B 型 14 名、生活介護 6 名）      |                                   |
| (5) 規模  | 建築面積 78.66 m <sup>2</sup> 木造 2 階建 | 建築面積 46.69 m <sup>2</sup> 木造 2 階建 |
| (6) 職員  | 常勤 9 名                            |                                   |

## 2. 事業実施状況 ※下段（ ）内は昨年度の実績

	就労継続 B (14)	生活介護 (6)	備考
開所日数	309日	309日	
登録者数	22人	7人	
1日あたりの平均利用者数	11.4人 (13.9)	4.2人 (5.2)	
平均工賃(月額)	6,038円 (5,215)		

### 3. 活動の成果と今後の課題

#### (生活介護事業)

各利用者の年齢や個別の課題に留意し、健康維持のための食事作りと体を動かすプログラム(体操、散歩)に取り組みました。多人数の中に入ると緊張しやすく、合同スポーツへの参加が難しい利用者から「日頃の運動不足を解消したい」との声があがり、生活介護の卓球の日を設けました。好評で、定期的な取り組みになりつつあります。今後としては、支援のアプローチを検討し、方向性を利用者と共有することを意識してより意識していきたいと思います。また、災害や救急時の支援・非常時の安全確保についても取り組む必要があると考えます。

#### (就労継続支援 B 型事業)

年度当初は報酬改定に伴い、平均工賃月額を下げないことを意識した形で始めました。本来学舎はゆったりとした雰囲気の中で、作業訓練の場と居場所が両立した空間でした。内職作業に追われ、利用者の中には作業室に息苦しさを感じるという声もありました。その反面、作業スピードが向上した利用者もいます。利用者が何を求めて事業所に通ってきているのかを職員が問い直す年となりました。今後の課題としては、生産活動に参加できるようになった利用者が就労を目指したときに支援する体制の再確認と個々のペースで作業に取り組める環境の整備と考えています。

## 事業所名：たんぼぼ共同作業所

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市福田中島 138
- (2) 種別 就労移行、就労継続 B 型、日中一時
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名(就労移行6名、就労継続 B 型 14名)
- (5) 規模 建築面積 128.35㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤7名

### 2. 事業実施状況

	就労移行 (6)	就労継続 B (14)	日中一時
開所日数	325日	325日	325日
登録者数	5人	27人	
1日あたりの平均利用者数	4.0人 (4.1)	15.1人 (15.5)	2.9人 (2.4)
平均工賃(月額)	13,737円 (15,217)	14,105円 (13,524)	5,258円 (3,378)

### 3. 活動の成果と今後の課題

様々な特性をもった利用者が混在し、多種多様な言動が飛び交う中で、互いに互いの性質を理解し、自分自身の感情や本質に気づいてきた一年でした。これまでの人生で人間関係を長く続けることができなかつた利用者も、周囲の利用者の寛容な気持ちや、職員の根気強い働きかけにより、自分の奥底の感情を表現し、コントロールする努力ができるようになりました。周囲の利用者も、自分とは違う表現をする他者について理解し、上手に対応する方法を身につけてつ

す。こうした社会性を向上することによって、作業についてもスムーズに、互いに声を掛け合って助け合いながら行えるようになっていきます。

29年度の就労者については、全員が就労を継続しています。30年度には新たに3名が就労しました。利用者自身の力を損なうことのないよう、適切な距離で見守りを行っています。

内職元受事業（機械部品の梱包作業）について、法人内の作業所へ内職作業を流すことにより、収入アップと仕事としての内職作業に近づいてきています。職員が分散してしまう状況に変わりありませんが、元受事業を把握できる職員を増やし様々な状況に応じて適切な配置を行いました。

• 就労移行支援

1名が就労しました。他の利用者についても、それぞれに自覚を持ち社会性の向上、生活の安定に尽力し、仕事をするという意識をもって作業を行いました。

• 就労継続支援 B 型

2名が就労しました。様々な利用者の中で、それぞれの安心して過ごせる場所を確保するため、職員が気づき配慮し、利用者自身も自分で退避して過ごしています。症状が安定しないとき、落ち着いているときなど、自分でわかって作業する、休憩するなどができるよう具体的に問いかけ、支援しました。

今後の課題としては、職員の支援技術の向上が挙げられます。面談やケース検討など適宜行っていますが、職員自身が自らの特性を知り、周囲からどのように見えているか、自分自身の水面下にある感情やその理由を把握し、適切な自信をもち、真摯に利用者に向き合うことにより、互いに信頼を寄せ、困りごとの原因を導き出し、解決策について検討し、提案し、実行を促すことができるようになると考えています。職員同士忌憚なく意見を述べ、互いに助け合い高めあっていく関係、環境を整えていきます。

**事業所名：学び舎あいまいもこ**

**1. 事業所概要**

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-12
- (2) 種別 就労移行支援事業・自立訓練（生活訓練）事業・日中一時支援
- (3) 営業日 月曜日～土曜日 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行10名、自立訓練（生活訓練）10名）
- (5) 規模 木造2階建て 314.76㎡  
木造平屋建て 58.38㎡（厨房棟）
- (6) 職員 常勤10名、非常勤4名

**2. 事業実施状況**

	就労移行（10）	自立訓練（10）	日中一時
開所日数	321日	317日	317日
登録者数	5人	14人	10人
1日あたりの平均利用者数	2.3人 (5.2)	8.5人 (7.8)	5.4人 (4)
平均工賃（月額）	3,353円 (8,401)	5,452円 (3,612)	3,651円 (1,999)

**3. 活動の成果と今後の課題**

平成30年度事業は、事業開始以来行ってきた生活訓練(10名)と就労移行支援(10名)の2事業を、平成31年4月1日以降、就労継続支援B(14名)と就労移行支援(6名)の2事業に変更するための事前準備を踏まえ事業運営を行うことになった。猫も杓子も就労を希望する一方で、基本的な生活を身に付けるための生活訓練の利用を希望する人たちが激減するようになった利用者動向を踏まえての変更であった。「学び舎あいまいもこ」の始まりは、行き場のない発達障害を持つ人たちが受止め「居場所」を提供することであった。そのことを思えば、随分多くの必達障害を持つ人たちが「居場所」で受止められ、過度の緊張状態から解放され自分の言葉で自己主張をするようにな

った。今は懐かしい人たちの顔が思い出される。平成 30 年度に行った事業で特筆しなくてはならないことがあるとすると、生活訓練も就労移行支援事業も 2 年間の有期限利用しかできないので、2 年を過ぎての利用は原則的に他の事業を行う所に移るのが普通のことになるのだが、日中一時利用でも利用できるのであれば、他に移ることをしたくないという人たちが 10 名ほど居たことであった。これが何を意味したのかというと、環境変化を嫌い、勝手知ったる自分の「居場所」でないとそこに居続けること自体が困難な人たちが「あいまいもこ」の継続利用を望んだということだった。だから、事業開始当時の「学び舎あいまいもこ」の持っていた雰囲気は、自己主張をするようになってからもそこを自分たちの「居場所」として大事にしつつ、その上で「個」と「個」がぶつかり合いながらもその「場」で気持ちに折り合いをつけていこうとする体験的学習の場に発展していった。それが現在では、利用する人たちの個性を感じさせる雰囲気は後退し、作業をする人、居場所ですらり時間を過ごす人、販売や厨房作業等の内職以外をする人たち、と一見整然とした秩序によってその場が動いているように見えるが、人が感じる様々な感情をそのまま受け止めそれに上手合わせられるような懐の深さが減ったようだ。そうはいつても、増改築によって建物全体が持つ空間は広がったので、これから新しい試みに挑戦するためには十分なものが出来たと見えそう。

## 事業所名：メンタルサポートみこち

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市逆川 111-1
- (2) 種別 就労移行、就労継続 B 型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20 名（就労移行 6 名、就労継続 B 型 14 名）
- (5) 規模 建築面積 397.00 m<sup>2</sup> 鉄筋平屋建て
- (6) 職員 常勤 6 名、非常勤 3 名

### 2. 事業実施状況

	就労移行（6）	就労継続 B（14）	備考
開所日数	321 日	321 日	
登録者数	3 人	32 人	
1 日あたりの平均利用者数	2.8 人 (2.7)	15.8 人 (15.7)	
平均工賃（月額）	13,138 円 (10,350)	10,008 円 (10,466)	

### 3. 活動の成果と今後の課題

平成 30 年度は、前年度と違い、人の入れ替わりが多い 1 年でした。近隣に「作業所いつでも」が開設されたことは、みこちにとっても大きな変化であり、畑作業を一緒に行ったり、新しい作業の見学に行くなど、協力しあえることが多くなりました。

就労支援事業の内容は、前年度と大きく変わっていません。優先調達法による作業も、例年通り行っています。弁当事業、請負事業は、みこちが特に地域の方とつながることができるものです。弁当では、関係機関、地域包括支援センターからの紹介であったり、とってくださっている方からの紹介といった、新規の注文が 17 件ありました。継続しての注文は 6 件ですが、配達、お金の受け渡しなどを通して、「人とかかわる」ことをしています。利用者の、「お弁当を届けた時に、ありがとうと言ってもらえて、うれしかった」という言葉は、地域の人との「助け合い」ができてい実感します。請負事業でも、草刈りなどで「きれいにしてもらってありがとう」と言われることがあります。これも同様だと考えます。請負、厨房作業は、遅刻をしないこと、身なりを整えること、着替えなど、持ち物を忘れないこと、などといった約束事もいくつかあります。そのため、内職よりも工賃の設定は高く、工賃アップした利用者もいます。作業分解をおこなうことで、できる作業の幅も広がりました。内職作業は、景気や季節に左右されたり、そもそもの工賃が安いですが、内職だと安心して来所できる利用者もいることも事実です。

精神障害を持つ方は、不安、緊張が強く、どんどん前へ進んでいくというよりは、「これでいいのか？」と、慎重に歩を進めます。また、変化への対応も簡単ではなく、新しいことに挑戦することが時に困難です。派手な動きはないですが、地道に、ていねいに、少しずつ自分を主張し、自信をつけていくことをおこなってきました。30年度は、8年間みこちを利用した方が、ついに就職をしました。ひとりでの作業ですが、その分気が楽なようで、もともと持っている能力を発揮して仕事を継続しています。

継続Bでは工賃アップを、就労移行では就職支援を、半年就職が続いたところで定着支援サービスを行うことで、報酬は上がることもあれば、できなければ大幅に下がります。利用者の生活、人生に寄り添いつつ、きちんと経営をしていくことを、今までよりも強い意識を持っておこなっていかねばならない、と感じた一年でした。

## 事業所名：居処どこでも

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽 5372-28
- (2) 種別 自立訓練（生活訓練）、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（自立訓練（生活訓練）6名、就労継続B型14名）
- (5) 規模 建築面積 111.79㎡ 木造平家建
- (6) 職員 常勤 4名、非常勤 1名

### 2. 事業実施状況

	就労継続B（14）	自立訓練（6）	備考
開所日数	309日	309日	
登録者数	20人	1人	
1日あたりの平均利用者数	10.2人 (10.8)	0.6人 (0.7)	
平均工賃（月額）	10,799円 (15,166)		

### 3. 活動の成果と今後の課題

#### <自立訓練（生活訓練）>

唯一の利用者だった特別支援学校卒の男性利用者は3月に無事就労支援B型へ移行されました。ご本人の希望や考えを確認しながら過ごし方を工夫すること、ご家族を含めた面談を重ね目標を共有しながら過ごすことができたこと、など丁寧な関りを重ねることで、目標としていた利用者の生活の安定や次へのステップアップを支えることができました。今後は事業変更を予定しています。

#### <就労継続B型>

年度当初は、利用者増加に伴い限られたスペースをどう活用しながら作業を展開していくかが課題の1つでした。しかし、就労や転居、介護保険への移行など年度当初からの利用者が利用終了していく一方で新規利用者は伸び悩み、現在は1日あたりの利用者が年度当初よりも減少しているという状況に陥ってしまいました。利用者増加のため事業内容の見直しが急務となっています。

その中で感じていることとして利用者の傾向の変化をご報告します。第1世代とも言える、事業開始当初からの利用者達は日中の居場所的な利用を希望されるとともに高齢化もあって作業能力も低下傾向にあり、今後は介護保険との連携予備軍となっています。第2世代はここ数年で利用を開始された方々で多くは障害者雇用等へステップアップをしていきました。そして現在は第3世代とも言える方々の利用が始まっています。第3世代の方々は、自分の生きづらさを自覚しながら自分を認めてくれるところ、活躍できるところを求めて探し行動するエネルギーのある方々です。そして「どこでも」へ至るまでの間に、人間関係で傷つき不安や緊張も高く集団で過ごすことが苦手な引きこもっていたり通所をしても長続きしなかった方々でもあります。第2世代の中で一般就労ではなく「どこでも」への通所を継続している方々にもこの傾向は感じられますが、より強いエネル

ギーとははっきりとした傾向を感じ取れるのが第3世代の方々と言えます。

今後は、利用者の傾向の変化を職員が改めて意識し、第3世代のような特徴をもつ方々を積極的に受け入れ利用者増加に努めることとなります。また、年度当初の目標として掲げた①限られた屋内の作業スペースの活用を工夫すること、②畑作業の立て直しの第1歩として着手した敷地内でのプランター菜園の定着や販売方法の検討、は利用者の傾向の変化を意識しながら今後も行っていくことが利用者の通所定着のために必要であると感じています。持ち越し課題である「自主事業」については、職員だけでは何をしたらいいのか？イメージが持てませんでした。しかし第3世代のエネルギーに触れ、利用者との関りの中からこそ何かが始まることを改めて感じます。利用者の思いに寄り添いそれを実現しようと一緒に取り組んでいくことで「どこでも」ならでの自主事業が見えてくる予感がしています。職員が意識を新たにし、利用者を含めたミーティングや日々の活動の中から、利用者とともに事業内容を発展させていくことが今後の課題となります。

## 事業所名：はたらき

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-16
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行6名、就労継続B型14名）
- (5) 規模 建築面積 313.64㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤7名、非常勤3名

### 2. 事業実施状況

	就労継続B(14)	就労移行(6)	日中一時
開所日数	318日	315日	312日
登録者数	27人	6人	13人
1日あたりの平均利用者数	16.6人 (16.9)	3.7人 (5.0)	1.1人 (0)
平均工賃(月額)	10,975円 (11,171)	12,681円 (11,552)	1,872円 (—)

### 3. 活動の成果と今後の課題

はたらきで課題となっていることは、現在行っている作業をどのように纏め上げ、プログラムとして機能するようにしていくかということです。はたらきでの作業が意味と繋がりを持って行われ、利用者にとって学習効果の高いものになっていかなくてはなりません。

30年度はこのことを職員が共有し、意識を持って取り組もうということでした。頭では理解できていても、実際に形にすることは簡単なことではありません。職員同士が意識を共有することと同時進行で利用者への理解を深めることもしなくてはなりません。それについては発達障害や精神障害について「知る」というところから始めることになりました。30年度に行えたことと言えばこのくらいのことで、とてもとても僅かなことです。しかし、これをしなければ日々の業務に追われるばかりで、あっという間に何のために仕事をしているのか分からなくなってしまいそうです。ですからこうして僅かでも先へ進もうと取り組めたことは意義があったと思っています。

次に、はたらきで行ってきたお弁当事業について報告をします。私たちは、困っている人の助けになることを自分たちの仕事にしようとする事業に取り組んできました。

昨年度は台風による断水や停電で移動手段を持たない高齢者や障害のある方は特に不便な日々を過ごされました。私たちはできる限りお弁当を届けようと決め、停電中の3日間も何とか通常通りの営業をすることができました。このことにとっても満足していましたが、落ち着いて考えてみたとき、ご飯が必要な方がいたかもしれない、夕食も必要な方がいたかもしれない気がしてきました。大変な時だからこそ相手に寄り添いサービスを提供する必要があったと感じています。必要な方に必要なサービスを提供することが確実にできるということが私たちの事業の継続には欠かせません。

地域に必要とされるものであり続けられるよう忘れないようにしたいと思います。

そして、昨年度は調理の腕を磨いてきた利用者2名を職員として採用しました。これまでも就労に結びつく人はいましたが、この先の状況は厳しいものになりそうです。根気強く取り組める人がいる一方で、踏ん張りがきかず甘えてしまう人や、諦めてしまいそうになる人が目立つようになりました。技術を習得するために行わなければいけない支援は多岐にわたるようになり、より多くの時間を必要とするものになってきたように感じています。

## 事業所名：作業所いつでも

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市菌ヶ谷 630-2
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行 6名、就労継続B型 14名）
- (5) 規模 建築面積 143.77㎡ 木造 2階建
- (6) 職員 常勤6名、非常勤1名

### 2. 事業実施状況

	就労移行（6）	就労継続B（14）	備考
開所日数	310日	310日	
登録者数	2人	17人	
1日あたりの平均利用者数	0.9人 (-)	11.8人 (-)	
平均工賃（月額）	4,023円 (-)	3,948円 (-)	

### 3. 活動の成果と今後の課題

平成30年4月より新規事業所として開設し1年が過ぎた。

当初、計画に上げていた地域活動支援センターとして活動し積み上げてきたものを大切に。具体的には居場所的雰囲気大切にしながら活動すると掲げてきた目標は概ね達成できたと感じている。近くにみこちがあり、バックアップを受けられたことも大きかった。利用者もサービスになかなか乗れずに家で引きこもっているような方を作業所につなげることもできた。現在利用者は合計19名まで増え、ゆっくりではあるが着実に増えてきている。

利用者については思った以上に年齢層が高い利用者が多いこと。来所するのが精一杯といった感じの利用者も多く、作業は内職を中心に行ってきた。その中で明るい材料として、畑作業は主に2人の利用者とベテラン職員2名の地道な努力・みこちからの協力を得ながら、近隣のみこち畑だけでなく、大東のビニールハウスの土作り・作物の植え付けまで行っていくことができた。また草刈りや片づけ作業も単発ではあるが、行うことができた。

今後については内職だけで工賃を稼ぐことには限界があることは職員皆思っている。そのため、現在行っている畑作業の拡大（具体的にはトマト）。もうひとつは、草刈りや片づけの外作業の拡大。ノウハウをすでに持っているみこちに習い・教わり・協力しながら稼ぎを上げていきたいと考えている。さらに施設外支援につながるような内職をと考え、年度後半より始めたため、実際に施設外でできるようにしていきたいと考えている。

## 事業所名：えひめ

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市蛭池 266-1
- (2) 種別 就労移行、就労継続B型、自立訓練（生活訓練）、日中一時
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～16:00
- (4) 定員 20名（就労移行 6名、就労継続B型 14名）

- (5) 規模 建築面積 313.64㎡ 木造 2階建  
 (6) 職員 常勤 8名

## 2. 事業実施状況

	就労B(14)	就労移行(6)	自立訓練(6)	日中一時	備考
開所日数	311日	311日	311日	311日	
登録者数	16人	0人	12人	人	
1日あたりの平均利用者数	3.6人 (—)	0.5人 (—)	2.5人 (—)	0.04人 (—)	
平均工賃(月額)	5,683円 (—)	5,337円 (—)	2,958円 (—)	2,618円 (—)	

## 3. 活動の成果と今後の課題

事業開始から一年が経った。長い一年であったような気もするし、あっという間の一年であったようにも感じる一年となった。この違いが何によって引き起こされるのかということ、新規事業立ち上げにまつわる悲喜交々が職員と利用者との関係から醸し出される雰囲気をえらく重く感じられる日々が相当に続くことがあったり、片やまるで能天気な気楽なおじさんのような気持で過ごしても大丈夫だなとある瞬間に思ってしまう時もあったりして、それらを寄せ集めると前述のような表現になったということである。実際のところは、一向に増えない利用者に焦ってみたり、職員間の高まる緊張状態に堪え難い雰囲気をもち続けてみたり、四苦八苦の一年であったことを正直に言わなくてはならない。

「えひめ」は施設整備を考えていく段階から、発達障害の二次障害状態にあるにも拘らず主につつ状態を始めとして結構多彩な精神症状を抱えながら自己不全感に悩む人たちを受止めていくこと、そしてそれらの人たちに発達障害であるがために必要な学習を行って貰うことを考えてきた。それは、発達障害が今日的課題であるからこそ、発達障害を正しく理解することから始めないと、就労などは全く手が届かず、規則正しい生活を送ることさえもままならないからであった。このような「当たり前なこと」は、人間の生活では基礎的学習として身に付け成長してくるのが普通のことになるのであるが、人生早期の時点で発達障害を指摘されると、その特徴的な言動となる独り善がりになっていたり、自己中心性の高さが他を圧倒する自己主張の強さになっていたりすることになる。そこで、それらのことを踏まえながらその行動特性の修正と学習が行われ、人生の早い段階から社会適応能力を高めるための日常生活を送る上での課題への取り組みを行うことを早期療育と称してきた。この一年を振り返ると、当初は、発達障害の二次障害の人たちの利用の少なさに奇妙さを感じていたが、利用者が増えるに従って、あらゆる病名を持ち、本人の主観感情に従えば多種多様な悩みや困難を抱えそのための自己不全感を抱える人たちへの本格的な取り組みがこれからようやく始まることになったということが出来る。

## 事業所名：あぼかど

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市蛭池 267-1  
 (2) 種別 共同生活援助、短期入所  
 (3) 営業日 年中無休  
 (4) 定員 共同生活援助7名、短期入所2名  
 (5) 規模 建築面積 461㎡ 木造 2階建  
 (6) 職員 常勤(兼務) 7名

### 2. 事業実施状況

	共同生活援助(7)	短期入所(2)	備考
開所日数	365日	365日	
入居者数、登録者数	5人	2人	
稼働日数	213日	4日	

稼働率	67%	0.1%	
-----	-----	------	--

### 3. 活動の成果と今後の課題

グループホームの運営は、私たちの法人にとって初めてのことで、未経験への挑戦が事業開始の遅れに繋がった。どのような問題や困ることを抱えることになった人たちがグループホームを必要とするか、そのことに付いては今まで何度も考えて来たしその必要性を疑うこともなかった。しかし、いざ運営を始めることになると、考えてきたことやイメージしてきたことと違って、分からないことや迷うことが余りにも多く、利用者を受入れることが出来たのは、事業開始から4か月も経ってからのことだった。何に一番苦労することになったかということ、専ら通いで利用して貰っている就労系の事業所で就労支援を行うことと、休日や夜間の食事の提供を中心に、生活上の一寸したお世話とでは、同じ職員がこの2つのことを行おうとすると、支援内容から職員の主な役割まで、相当な違いがあってそれを同時進行する昼間の支援と夜の支援を、労働関係法規に抵触することなくまとめ上げることが非常に難しい作業になった。それに加えて、世話人と生活支援員との位置付けの違いを踏まえながら、事業所単位毎に整合が取れるよう勤務を組むという所まで行き着くまでにはお付き合いのある他法人の人たちから多くのことを教えて貰うことになった。こうして運営を開始できるところまでの経緯は、「あぼかど」だけのことでなく「あぼろん」でも全く同じ事情を抱えての始まりとなった。ただ、運営が始まると、「あぼかど」と「あぼろん」では、どうしてそこまで違いが起きるのか、改めて考えさせられることになった。

「あぼかど」が「あぼろん」と大きな違いとして際立ったことは、一言でまとめてしまうと、利用者の安定度の差が大きく関係することになった。「あぼかど」を利用することになった人たちの多くが、安定した生活を送れず、これがそのまま「あぼかど」運営の課題となった。

#### 事業所名：あぼろん

##### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2672-16
- (2) 種別 共同生活援助、短期入所
- (3) 営業日 年中無休
- (4) 定員 共同生活援助 7名、短期入所 2名
- (5) 規模 建築面積 461㎡ 木造 2階建
- (6) 職員 常勤 8名(兼務)

##### 2. 事業実施状況

	共同生活援助 (7)	短期入所 (2)	備考
開所日数	365日	365日	
登録者数	7人	1人	
稼働日数	221日	2日	
稼働率	79%	0.06%	

### 3. 活動の成果と今後の課題

グループホーム運営の課題は、「あぼかど」と全く同じく、事業開始するまでの多くの宿題となっていた課題を一つ一つを解決し、「大丈夫」ではなく「これで何とか行ける」という水準まで問題の整理と一定の秩序を生み出すところまでは、一寸した苦労となった。この苦労の内容は、「あぼかど」同様のことになるので、「あぼかど」の事業報告を参照して欲しい。「あぼろん」は、「あぼかど」と違って、順風満帆の滑り出しを経て、無風とまでは行かないものの、そよ風が心地よく建物の中で暮らす人たちの中を流れ、人と人がそこで暮らしていることを十分感じさせるだけの雰囲気を持ち、建物に入っただけで感じ取ることが出来る「安心感」を人が感じる事が出来るゆとりをもっているところだと言えそうだ。そうだからと言った方がいいのだと思うが、「あぼろん」でも利用者同士の一寸した感情的な行き違いがあっても、それを受止め、むしろ感情的に面白くないと感じたり思ったりしたとしても、「場」持っている雰囲気によって癒されて行くようである。どうして「あぼろん」がこのような「場」が持つ力を培うようになっていったのかは、この先の動きを見て

行かないと分からないが、「あぼかど」が持っている殺伐とした雰囲気とは、余りにも違いが大きすぎるので、私たちにとっては学ばなくてはならないものが多くあるような気がしている。

### 相談支援事業

事業所名：生活支援センターいろいろ

#### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市見付 5883-5
- (2) 種別 指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業・指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～金曜 8:30～17:30
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 78.66 m<sup>2</sup> 木造 2 階建 (学舎いろいろ内)
- (6) 職員 常勤 1 名

#### 2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	258 日	
年間計画作成数	120 件 (135)	(モニタリング含む) うち児童 3 件

#### 3. 活動の成果と今後の課題

磐田市内の特定相談支援事業所内の勉強会が始まりました。事例検討を通して意見交換をする機会や報酬改定に伴う各種支援の加算に関する情報交換の場です。相談支援を行う中で近年感じていることは、民間の参入で支援の幅も多様化した点です。支援者として情報収集は欠かせないと感じました。また、事業所に通えなくなってしまったケースもいくつかあり、今後の支援について検討が必要です。

今後については、外部研修や法人内の研修等で、アンテナを高く張り、支援につなげていきたいと考えます。

事業所名：生活支援センター袋井いろいろ

#### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市久能 2497-16
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（袋井市委託事業）  
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～19:00 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 151.0 m<sup>2</sup> 木造平家建
- (6) 職員 常勤 5 名、非常勤 2 名

#### 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	365 日	310 日		
年間実利用者数	150 名 (164)	71 名 (73)		
年間延件数、利用者数	4,118 件 (4,039)	6,078 名 (5,440)		
1 日平均件数、利用者数	11.3 件 (11.1)	19.6 名 (17.5)		

年間計画作成数			289件 (320)	(モニタリング含、 うち児童70件)
---------	--	--	---------------	-----------------------

### 3. 活動の成果と今後の課題

相談支援事業では、医療や福祉サービスにつながない方の支援を積極的に行いました。多くのケースで家族全体がそれぞれ問題を抱えていて支援を必要としているため、関係機関と連携をとりながら継続的に支援していきます。また、障害者の高齢化に伴い、介護保険に移行する年代の方が増えてきているため、関係機関と連携をしていきます。発達障害については外部研修を利用し、理解を深めてきました。今後はその特性や生活のやりづらさや家族環境を的確に捉え、適切な支援につなげていけるよう努めていきます。啓発活動はまったく実施できていないため既存の家族会と連携しながら進めていきたいと考えています。

地域活動支援センターは利用者が安心していられる場、困った時に頼れる場になれるよう活動してきました。毎日の送迎、昼食づくりなどを継続して行い、利用者の日々の様子や会話から汲み取れる変化を捉えられるよう心掛けています。定着して利用できている利用者は生活リズムが整い、人との関わりの中で安定した生活を送ることができています。さらに福祉サービスにつなげて生活に変化を持たせていけるよう支援していきます。一方、なかなか定着できない利用者もあり、今後は、利用者が楽しく過ごせるようなプログラムを利用者と一緒に考えていくことで定着できるよう進めていきます。

サービス利用計画作成については、本人の思いや状況を正確に把握し、それぞれのサービス提供者がスムーズに支援できるよう努めています。今後も本人や家族の希望やニーズを十分聞き取り、本人の気持ちに寄り添った計画作成、相談支援を行っていきます。児童に対する計画作成は関係機関との連携、調整がうまくいかず、あまりできませんでした。

#### 事業所名：生活支援センターいつでも

##### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 掛川市藺ヶ谷 630-2
- (2) 種別 指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:00 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 143.77㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤1名、非常勤1名

##### 2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	258日	
年間計画作成数	160件 (192)	(モニタリング含む)

### 3. 活動の成果と今後の課題

29年度で委託相談が終了したため、30年度は計画相談の作成を主に行った。今まで継続して関わってきた方の計画や掛川市内の事業所の計画を中心に作成した。相談支援専門員がほぼ1人で行うため、件数的には現状では一杯一杯の状況となっている。また困難事例と言われる方の対応も増えてきているように感じている。

事業計画に上げた医療機関など各関係機関との連携はしてきたが、本人・家族の高齢化に伴い、介護保険への移行・併用などの事例も出てきた。

今後は、今までの各関係機関に加えて、高齢者機関との連携をより密にして支援を行っていくと考えている。

#### 事業所名：生活支援センターいつでも おまえざき

##### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 御前崎市白羽 6171-1 御前崎支所 3階
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（御前崎市委託事業）  
指定特定相談支援事業、指定一般相談支援事業、指定障害児相談支援事業
- (3) 営業日 月曜～土曜 9:00～17:30 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 御前崎支所 3階
- (6) 職員 常勤 3名、非常勤 1名

## 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用 計画作成数	備考
開所日数	365日	307日		
年間実利用者数	118名 (99)	53名 (52)		
年間延件数、利用者数	3,047名 (2,388)	1,598名 (1,314)		
1日平均件数、利用者数	8.3件 (6.5)	5.2名 (4.2)		
年間計画作成数			45件 (25)	(モニタリング含む)

## 3. 活動の成果と今後の課題

前年度の活動を継続しながら、特に就労定着のための支援については当初目標の通りプログラムの実施や個別支援をもって意識しながら取り組み、離職者のない1年となりました。ただし、市からは新規利用者として離職や休職した方が紹介され仕事復帰のための支援を求められるなど「就労」を軸とした関りは、より積極的に求められるようになった1年でもあったと感じています。

市から紹介されてくる利用者の多くは、障害福祉サービスを利用していない方です。地域活動支援センター利用も含めかわりを持つ中でご本人の希望や能力評価等を行い、サービス利用も含め今後の支援の組み立てから行っていく役割を求められることが多くなりました。委託事業をきっかけに始まるやりとりを漫然と行うのではなく、見極めをしながらサービス利用（計画相談を通しての支援）へ繋げていくことを意識しながら行うことが今後の課題となります。

また今年度は、主治医との関係が良好でない方が警察の介入を経て入院に至るにあたりその間の支援に苦慮したり、身体疾患等を発症する利用者の出現によって「健康的な生活」を改めて意識する状況に直面する、など印象的な事柄があった1年でもありました。問題が起きてからの対応力が求められますが、問題が起きないように予防的な関りも意識しなくてはなりません。法人内の事業所とも繋がりながら、事業所としてスキルアップができるよう取り組んでいきたいです。

## 事業所名：生活支援センターいつでももり

### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 周智郡森町森 962-3
- (2) 種別 相談支援事業・地域活動支援センター事業（森町委託事業）  
指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:30 時間外は転送電話にて対応
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 91.07㎡ 木造2階建
- (6) 職員 常勤 2名、非常勤 2名

## 2. 事業実施状況

	相談支援事業	地域活動支援センター	サービス利用 計画作成数	備考

開所日数	365日	262日		
年間実利用者数	70名 (59)	33名 (27)		
年間延件数、利用者数	3309件 (1954)	1717名 (675)		
1日平均件数、利用者数	9.1件 (5.3)	6.6名 (2.2)		
年間計画作成数			50件 (3)	(モニタリング含む)

### 3. 活動の成果と今後の課題

相談支援、地域活動支援センターとともに顔を合わせること出掛けていくことを意識して活動を行ってきました。いつでももりには昼間の時間を何となく過ごす方や自宅で採れた野菜を持ってきてくれるお母さん、ボランティアの方など多くの方が来てくれました。拠点となる場所があり、そこに必ず誰かがいるということがどれほど安心につながるかということを実感した1年でした。また介護保険や生活保護の関係の方々と一緒に動くことも増えました。いつでももりの存在を知ってもらい利用してもらうことはできました。今後の課題は、入院か自宅で過ごすかでサービス利用をしていない方が多くいることがわかりましたので家族教育の必要を感じています。また山間地域でサービス利用が難しい方も多いため訪問や送迎等をしつつ安定した生活が確保、維持できるように支援をしていきたいと考えます。当事者の方の持つパワーの大きさを感じることが多く、職員がこれをどう受け止め、支援していくか当事者活動について勉強しなければいけないと思います。

#### 事業所名：相談えひめ

##### 1. 事業所概要

- (1) 所在地 磐田市蛭池 266-1
- (2) 種別 指定特定相談支援、指定一般相談支援、指定障害児相談支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～17:30
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 313.64㎡ 木造 2階建
- (6) 職員 常勤2名

##### 2. 事業実施状況

	サービス利用計画作成数	備考
開所日数	276日	
年間計画作成数	99件 (—)	(モニタリング含む)

### 3. 活動の成果と今後の課題

事業開始の初年度ということがあって、「えひめ」の利用者を中心に計画相談を行うことになった。また、浜松市内の就労移行支援事業所の数が増え、それに従って就労移行支援や就労定着支援の相談も増えてきた。これが今年1年の大雑把な事業報告となるが、平成30年度の後半からは、磐田市内に住所を持つ人たちからの、いわゆる処遇困難ケースの紹介が急増し始め、計画相談を作成することが精一杯なのに、アセスメントを始めとして一連のケースワークをしないと現実的な支援を行えないという状況になってきた。その意味では、磐田市内に住所を持つ潜在事例が顕在化し始め多様なニーズに答えなくてはならない状況変化が生まれ、各関係機関との連携を始めとして、特に、磐田市から委託を受け活動を行っている磐田市相談支援センターとの緊密な連絡や連携を行うことを心掛けて行かないと、結果的に、利用者や家族への迷惑やかえって心配事を増やすことになりかねない危惧を払拭できなくなることが明らかになってきた。こうしたことに付いては、「えひめ」の相談だけで何とかできることではないので、特別な注意と関心を持って対応策の協議を行って行きたいと考えている。

事業所名：ごん太

## 1. 事業所概要

- (1) 所在地 袋井市浅羽 1912
- (2) 種別 日中一時支援
- (3) 営業日 月曜～金曜 9:00～16:00
- (4) 定員 なし
- (5) 規模 建築面積 43.0㎡ プレハブ
- (6) 職員 あいまいもこと兼務

## 2. 事業実施状況

	日中一時	
開所日数	0日 (0)	
1日あたりの平均利用者数	0人 (0)	
1ヵ月あたりの平均利用者数	0人 (0)	

## 3. 活動の成果と今後の課題

「ごん太」を休止状態にしてから2年弱が経った。「ごん太」開始当時、利用者が何人かいたが、現在は、利用者はいない。呼びかけると利用を考える人がいることは分ってはいるが、そこまで手が回らなくなっているのも1つの事情となっている。

「ごん太」の始まりは、逸脱行為や問題行動を多発させ、受け入れる事業所が全くないために苦肉の策として始めたものであった。その問題行動を繰り返した当の本人が、高齢になってその孤独に耐え切れずつい最近亡くなった。彼のような人は私たちの周りに、あの人もこの人も、と感じられる人がかなりの数いるだろうと思われる。そうした人たちを何とか受け止めていこうという気持ちはあるものの、あと少しの余裕が出てこないと現実的には絵空事になってしまうのも事実のことになる。令和元年中に何らかの事業スタートが出来ることを目指せるといいのだが。

平成 30 年度 社会福祉法人ひつじ事業報告附属明細書

該当事項ありません。